（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4291500058		
法人名	社会福祉法人　値賀の里		
事業所名	グループホーム　暖家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷2698番地1		
自己評価作成日	平成28年1月26日	評価結果確定日	平成28年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4291500058-00&PrefCd=42&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社　医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成28年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設内は天井が高く開放的で、美しい朝日や青い海、五島の島々が望める風光明媚な環境で暮らすことが出来ます。明るく元気な職員が多く、『笑顔の絶えない楽しく暖かい家』を目指し、『その人らしさを大切に』ご利用者様の支援をさせて頂いています。島という地域柄、ご利用者様、ご家族、職員、地域の方々が知り合いや顔馴染みであることが多く、親しみやすい関係が築きやすい環境です。『おぢかの皆さんとふれあい、助け合い、支えあう安心できる暮らし』が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホーム暖家は明るく開放感のある建物で、心地よい生活を送ることのできる環境が整っている。このような環境のもと、職員は「笑顔の絶えない楽しく暖かい家」という理念を大切にして入居者の支援を実践している。実際に職員の明るい笑顔や挨拶があったり、会話の中から笑い声が絶えなかったり、、ホーム内のディスプレイ等温かさを感じることができ、入居者は心地よい環境の中で生活を営むことができている。また、地域柄も相まり、暖家と地域との関わりが深く、顔なじみの関係が随所に見受けられる。このような関係性があるため、入居者にとってはも安心感を持つことができたり、昔のことを思い出す機会も多くあり、住み慣れた土地で穏やかな生活を継続できている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時、職員が話し合って作った理念を毎朝（朝礼時）唱和し、共有・再確認している。	「笑顔の絶えない楽しく暖かい家　その人らしさを大切にゆっくりとした自由な生活」という、暖家の理念の基、職員は入所者中心に援助をしていこうと日々取り組んでいる。元々地域性のある土地柄で、入居者と職員とが馴染みの関係を維持し、笑顔・言葉使い・挨拶を柱として、日々ケアへ反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や学校行事の見学に出掛けたり、暖家主催のクリスマス会に地域の方々も招待し交流するよう努めている。	地域性の高い土地柄でもあり、入居者同士が知り合いであったり、職員と入居者が知り合いであったり、近隣の人が知り合いであったりと、暖家に関わる人々が地域に馴染んでおり、避難訓練や地区の行事ごと等、地域で一体的に実施している。また、地域の行事に職員が参加する際は、その姿を入居者が応援に行くような、微笑ましい光景が随所にあることを確認した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で介護をしている家族から相談されることがあり、支援の方法を伝えたり傾聴している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し活動を報告している。クリスマス会や誕生会、避難訓練に参加して頂き意見を頂いた。頂いた意見は職員会議や処遇会議の際、職員に伝えている。	運営推進会議のスタイルとしては報告中心型で、入居者の近況報告等、丁寧に実施していることを議事録より確認することができた。この会議で抽出した内容を改善点とした一つの事例があり、それは、地域の消防の方と家族からの指摘で、避難訓練の対応についての内容であった。毎回意見をもらうわけではないが、テーマによっては意見が出て、可能な限り改善していく方針であることを、ヒアリングの中から確認することができた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、活動を報告している。	行政関係の職員とのやりとりは、福祉事務所の所長が中心となっている。相談するケースよりも報告事案が中心となっている。土地柄もあって、顔の見える関係にあり、相談しやすい環境が構築されていることを、ヒアリングの中から確認することができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度身体拘束・虐待防止委員会を開催し具体的な事例を挙げて確認を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	暖家内の組織である、身体拘束・虐待防止委員会を3か月に1回開催し、基本的に全員参加のルールで、身体拘束等の基礎知識や事例検討等、幅広く取り組んでいることをヒアリングの中から確認することができた。また、スピーチロックは、忙しさからか、つい出てしまうこともあるが、職員はお互い注意し合い、その人らしい生活を支えることのできるように、日々理想とするケアを追求していた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に一度身体拘束・虐待防止委員会を開催し具体的な事例を挙げて確認している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には参加できていないが、町役場と連携し活用を図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等を用いて説明し、不安や疑問点を尋ね理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で意見や要望を聞いたり、ケアプランの見直しの時期に『意見書』を家族に郵送し記入して頂いている。 『暖家だより』でも「意見や要望を伝えて下さい」と呼び掛けている。	入居者や家族が意見を出す場として考えられるのは、日常の生活の中や面会の際、あとは運営推進会議、年に2回法人単位で行事の後の家族会等が該当する。この他にもケアプランの見直しの際に意見書を郵送してプランに反映している。この意見書に散歩に連れて行ってほしいことや、もっと職員から声をかけてほしい等の意見が書かれていて、実際のプランに反映していることを書類から確認することができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や休憩中の雑談の中でも意見や提案を聞くようにしている。	職員から意見を抽出する場として、月に1回開催している職員会議の場や、意図的に日常の業務の中、そして、休憩時間等に管理者から話かけて機会を作っている。職員同士の風通しがいいこともあり、普段の会話の中から意見が出てくることが比較的多いようであった。意見の反映の一例として、入居者が浴室内の移動をする際、手すりがあった方が安全という職員からの声に対し、オーダーメイドで手すりを設置した。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有する資格に応じて手当を付けたり、正職員として雇用している。希望に添ってシフトを組み、地域や学校に行事等への参加やリフレッシュが出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島外の研修には参加できていないが、島内で開催される研修や勉強会には積極的に参加し、研修報告で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	『GHおぢかの家』さんと合同で勉強会を行ったり、『養寿園』と一緒に運動会や夏祭りを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会し、少しでも不安が和らぐよう努めている。入居後は笑顔での声かけを意識して行い、行動や表情の変化を観察しケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面会時や電話があったとき等に要望や疑問を聞いたり、入居後のご利用者様の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がどのようなサービスを必要としているのか話を聞き、提供出来る事と出来ない事の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来る範囲で家事を手伝って頂いたり、一緒に食卓を囲んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	『暖家だより』等で近況を報告し、共有している。ご家族やご本人の希望に応じて帰宅したり、電話を掛け、声を聞いたり会話することで関わりを持って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブの途中で自宅周辺を訪れたり、馴染みの理美容室での散髪や、商店での買い物、墓参りに出掛けられるよう支援している。同窓会の案内があり、参加された。	地域性が高い土地柄であることから、入居者や職員と地域住民との関係は良好で、入居者のうち、ある女性の方は地域の女子会に参加されたり、希望がれば比較的気軽にお墓参りに出向いたり、その後に自宅に寄ってみたりする等、地域の中で生活が継続できていることを、ヒアリングの中から確認することができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事を手伝って頂いたり、レクや体操に参加して頂くことで交流を図っている。食事の席や、ソファ、車内の座席は相性を見て考慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても同じ地域の住民として挨拶や声かけを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を直接尋ねたり、日常の何気ない会話やご利用者様同士の会話から汲み取るよう努めている。困難な場合は表情や行動を観察し把握に努めている。	一人ひとりの利用者と居室でゆっくり時間をかけて話しをする、普段の生活の中で、行動や表情をよく観察することで利用者の思いや希望を汲み取る努力をしている。職員が把握した利用者の思いを処遇会議等で全職員で話し合い、客観的に生活課題を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、在宅のケアマネから生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等を伺ったり、ショートステイ利用時の様子を養寿園の職員から聞くなどし、把握に努めている。地域の方から情報を頂くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護支援経過や申し送りノートに記入し現状を共有、把握している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様それぞれに担当を付け、モニタリングを行っている。会議の際、全員で話し合い介護計画を作成している。ご家族には介護計画と意見書を郵送したり、面会時等に直接話を聞き計画に反映させている。	利用者の生活課題と、意見書で把握した家族の要望を踏まえて、処遇会議等で具体的な目標や支援方法を全職員で話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月ごとに担当職員がモニタリングを行い、それを基に全職員で支援経過と利用者の変化を話し合い、次の介護計画を検討している。利用者の状態が変化した時は、主治医等の指示を受けて、随時介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月2回の会議や、個人記録、各チェック表、申し送りノート等を活用し現状の把握と共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身内の冠婚葬祭や、同窓会に参加できるよう支援。島外の病院を受診する際は、ご家族の同行となっているが状況に応じて職員の同行も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は限られているが、馴染みの関係は築かれており町民の一人として支えられている。ボランティア（踊りや演奏など）を受け入れ交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関が1箇所しかないため、入居後も引き続き同じかかりつけ医に診てもらっている。希望に応じて月1回の専門外来も受診している。職員が同行し、ご家族に報告するようにしているが、状況によりご家族も一緒に受診して頂いている。	医療機関が1箇所しかないという事業所の地域性もあり、利用者は入所前のかかりつけ医に継続受診している。通院の仕方や報告のあり方について、入所時に家族と話し合い了承を得ている。受診時は利用者のバイタルや状態を医師に報告し医療機関との信頼関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師がいない為、発熱など体調が変化したときは直接診療所に連絡し早めに受診している。同法人施設の看護師とは相談が出来る体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は様子を見に行き、医師や看護師から病状や退院の目処について情報を得ている。退院後の注意点などの指示も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良で入院し、そのまま退所となったり、重度化し養寿園に入所となるケースが多い。事業所で看取りを行った事例もあり、ご本人やご家族の希望や思いに添えるよう努めている。	入所時に、重度化した場合の事業所が対応できる支援内容を家族に説明し理解を得ている。利用者の状況変化に応じて、医療機関や事業所、家族で話し合い、本人や家族の意向を確認しながら今後の対応方針の共有を図っている。	入所時に、事業所が対応できる支援内容を家族に説明しているが、文章化されていない。今後は、重度化した場合の事業所が対応できる支援内容や終末期に向けた方針を明文化して同意を得る事を期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導の下、AEDの使用方法や心肺蘇生の方法を学んだ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	昼夜を想定した防災訓練を年2回行い避難方法を身につけている。消防署や養寿園と合同で行い協力体制を築いている。今年度は運営推進会議の際に訓練を行い、意見を頂いた。 毎日20時、23時に火元･電源･戸締りの確認を行っている。	運営推進会議時に避難訓練を行うことで、近隣の住民や家族、消防署との連携を図っている。訓練後、意見や反省点を参加者全員で話し合い、次回の訓練に繋いでいる。自動通報装置を設置し、同法人の他施設との協力体制も整っている。設備点検も定期的に行い、非常用食料や備品の準備も整っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴の際、希望に応じて同性で対応したり、勝手に入室しないようノック、声かけをしている。ご本人の思いをそのまま受け止め否定しない、丁寧な言葉遣いを心掛けている。	利用者が理解しやすい声かけを処遇会議等で話し合い、一人ひとりに寄り添った言葉かけを行っている。援助が必要な時も、職員が慌てず、冷静にさりげなく対応する等、全職員で利用者の誇りやプライバシー確保の具体的な支援のあり方を常に話し合い実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しますよ」ではなく「～しましょうか？」と自己決定を促す言葉かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間、食事の時間など出来る限り一人ひとりのペースに合わせるようにしている。希望に添った外出支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室に出掛けたり、訪問の美容師にカットしてもらう際も好みの髪型を伝えている。着る服を自分で選べる方はご本人に任せ、選ぶのが困難な方は職員がその人らしい物を選んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ウニご飯やつわぶきの煮物など地元で採れる旬の食材や季節に添った献立を取り入れるようにしている。テーブルを外に出して食事をしたり、お好み焼きを自分で焼いて食べたり、お弁当を持って花見に出掛けるなど、楽しんで頂けるよう工夫している。野菜の皮むきやゴマすりなどの下ごしらえや下膳などを出来る範囲で手伝って頂いている。	地元で採れる食材を使って、職員が献立を作成し調理している。利用者は野菜の皮むき、コロッケやおはぎを丸める等、楽しみながら下ごしらえを行い、職員と一緒に、ゆっくりと各自のペースで食事をしている。天気の良い日は玄関先にテントを張り海を見ながら食事をする、彩りよく盛りつけることで食欲を高めたり、食事への関心を引き出す努力をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や水分摂取量の記録をとっている。起床時に牛乳を、10時には好みの飲み物（コーヒー・お茶・ポカリスエット）を提供している。ミキサー食や、お茶を寒天で固めたり、汁物にトロミをつけるなど一人ひとりの状態に応じて工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご利用者様の状態に合わせて声かけ、誘導、介助し、歯磨き・うがい・口腔ケアスポンジを使用したマッサージを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて誘導し、失禁を減らすよう努め、日中のオムツ使用をゼロにしている。立位困難な方も職員二人で介助しトイレでの排泄を支援している。	外部研修で学んだ「水分ケア」(水分を多く摂り、早めにトイレに誘導し便器に座って排泄する)に事業所として1年間取り組み、実践することで、入所時にリハビリパンツを使用していた利用者のほとんどが布パンツで過ごすことができるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し下剤も使用しながら、起床時に牛乳を飲んで頂いたり、お茶ゼリーを寒天に変更したり工夫している。昼食前に音楽をかけながら全員でホール内を歩き運動量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や人数は決まっているが、少しでも楽しんで頂けるよう入浴剤を変えたり、ゆず湯にして会話などコミュニケーションを取っている。羞恥心に配慮し、一対一で対応。異性の介助を嫌がる方は同性で対応している。	利用者の希望により同性介助で個別にゆっくりと入浴している。お正月の初湯にゆずを浮かべ、5月はしょうぶ湯にする等、季節を感じることが出来るように配慮している。脱衣室や浴室に暖房を設置する、浴室内の安全な移動を確保するため手すりを付ける等、利用者が安全にくつろいだ気分で入浴できるように環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具、明るさを調整して快適に眠れるよう支援している。眠れない時は付き添って会話したり、温かい飲み物やお菓子を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、種類や用法・用量を確認できるようにしている。薬の追加や変更、臨時薬が処方された時は申し送りノートに記入し、周知を図っている。確実に服薬できるように見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	亡くなった家族の写真やお位牌を持って来られた方が毎朝お茶などお供えが出来るよう支援している。新聞を購読したり、日課だった墓参りや好きなお菓子を買いに出掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って買物や散歩、ドライブ、墓参りに出掛けたり、自宅や子供宅に外出･外泊している。 同窓会の案内があり参加された。	利用者の希望で買い物や墓参りに出かける、天気の良い日は散歩やドライブを楽しむ、家族の希望で自宅の仏壇にお参りに出かける、年末、年始に外出や外泊をする等、これまでの生活の継続としての外出支援を行っている。車いすの利用者も、同法人が所有するリフト車で、花見や地区の敬老会、夏祭り等に他の利用者と一緒に出かけ、戸外で気持ちよく活き活きと過ごせるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は事務所で保管しているが、数名の方が少額を所持し、買物に出掛けた際は自分で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に子供や兄弟に電話を掛け、会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁にクリスマスやひな祭りなど季節の飾り付けをしたり、行事の写真を掲示している。玄関先やホールから見える花壇に花を植え、季節を感じて頂けるよう工夫している。ホールや居室、浴室が快適な温度になるように調整している。	天井が高く、窓から光が差し込み、開放感のある明るい空間になっている。床暖房や加湿器により、快適な温度や湿度が保たれ、壁には利用者が作った季節の飾り物や外出時の写真を貼る等、季節感を感じながら居心地よく過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが広く開放的な造りとなっており、ソファや椅子に座って思い思いに過ごせている。玄関にもベンチや椅子を置き、海など外を眺められるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、自宅で使用していた寝具や家具を持ってきて頂くよう、その理由も説明しお願いしている。家族の写真や誕生日会で贈ったカードを飾ったり、TVやお位牌を持ってこられたり、それぞれ違った雰囲気の居室となっている。	海と共に生活してきた利用者が多いため、海に面して居室を造っている。各居室に洗面台があり、自由に洗面や口腔ケアができ、また、利用者がスムーズに排泄できるように二つの居室に一つトイレを設置している。利用者はホウキで居室を掃除する、居室の仏壇にお茶やご飯をお供えする等、職員は利用者の残存能力を引き出しながら居心地よく生活できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口やトイレに張り紙をして分かりやすいよう工夫している。S字フックで洗濯物を干しやすい高さに調整している。		